

UMass Amherstプロボストが北大を訪問

8月6日（水）に、戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst）のプロボスト兼学務担当上席理事のファウアド・アブド＝エル＝カリック教授、国際連携マネージャーのエリック・ワース氏が、初めて来訪しました。同校との連携は、両校がマサチューセッツ農科大学、札幌農学校であった頃から数えて1世紀半になりますが、令和5年以降、戦略的国際パートナーとして複数分野における研究連携の強化を図っています。

UMass Amherstの両名は、高橋 彩理事・副学長（国際）に迎えられた後、札幌農学校時代からの系譜を辿るべく、クラーク像、古河講堂、大学文書館、総合博物館、修復工事を終えたばかりの北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）を、山本文彦理事・副学長（教育）／大学文書館長、大学文書館の井上高聡准教授と山本美穂子特定専門職、総合博物館の北野一平助教、国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職らと見学しました。キャンパス内外に残るウィリアム・S・クラーク博士の足跡と影響力に驚き、本学の創基100周年にランドルフ・プロメリーUMass Amherst学長（当時 同校初のアフリカ系米国人学長）が植樹したサトウカエ

デを含め、連綿と続く両校の交流に改めて感銘を受けていました。

山口淳二総括理事・副学長主催の昼食会は、UMass Amherstとの共同研究や大学院生の研究指導連携を進める情報科学研究院の吉岡真治教授と先端生命科学研究院の野々山貴行准教授、同校でポストドク経験のある工学研究院の佐藤敏文教授から話を伺う場となりました。また、瀬戸口剛理事・副学長（研究）、横田 篤理事・副学長（SDGs）らとの戦略的国際パートナーシップ及び地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）における進捗確認会議では、長年にわたり信頼関係を醸成してきた両校で共通する集中投資分野、大型研究資金獲得を目指して連携する意義を再確認しました。

専門が科学教育である同校プロボストの意向により、UMass Amherstの両名は教育学研究院、大学院教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）、工学研究院を訪問し、特に工学VRシアターでは岡田夏男助教はじめ学生との対話もあり、部局の研究教育・社会連携活動の一端に触れる機会となりました。ワース氏は、国際交流課、高等教育推進機構、国際食資源学院、北海道ワイン教育研究センター、生命科学院、医理工学院

との会談も行い、新規研究者マッチングや、大学院生の研究インターンシップとテイラーメイドのオープンラボ体験を含めた学生交流の可能性を探りました。

寶金清博総長主催の夕食会は、本年度から両校で開設した共同研究シードファンドで採択されている、工学研究院の大橋俊朗教授、水産科学研究院の清水宗敬教授、スラブ・ユーラシア研究センターの長縄宣博センター長が集まり、厳しい米国連邦政府系研究資金の状況、高等教育機関・研究機関側に立つマサチューセッツ州と連邦政府との関係性、政府系資金が断たれたことに伴うUMass Amherst本部からの部局研究資金補填策、米国高等教育に想定される経済影響、本年秋以降の見立て等、米国のアカデミアの近況を踏まえた話が弾みました。来年に迎える本学創基150周年の次の150年間も、クラーク博士という源流をとにもする両校の連携が更に発展することを願い、初めてのプロボスト来訪が終了しました。両校では前述シードファンドで採択された8つの研究チームの往来が始まっているほか、10月には技術職員の双方向交流事業を開始する予定です。

（国際連携推進本部）



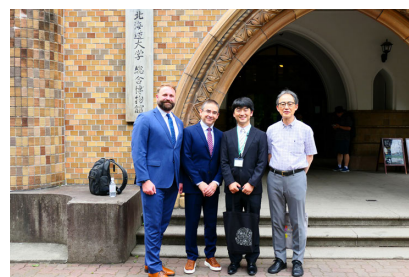
プロボスト（左から4人目）と寶金総長ら



瀬戸口理事・副学長、横田理事・副学長との研究連携進捗会議



VRシアターで語るプロボスト（右から2人目）



総合博物館見学